

橋下市長 憲法改悪へ意気投合

都構想は改憲の予行演習——橋下氏

維新の党に協力を得たい——安倍氏

大阪市の橋下徹市長(大阪維新の会代表)と安倍首相が、改憲で意気投合しています。安倍首相が憲法改正の発議で維新の党の協力を求めれば、「協力も何もできることはないです」と橋下氏。両者を結ぶキーワードは「大阪都」構想。橋下氏は、大阪市を廃止・解体する特別区設置の「協定書」の「住民投票」を「憲法改正の予行演習」とまで言い放ち、危険な改憲パトナーぶりを隠そうともしません。

■都構想を評価

安倍首相は関西テレビのニュース番組に出演し、橋下氏は、翌15日の定例会で「公明と維新が衆院の3分の2

を上回る325議席を占め、安倍首相は、首相指名後の会見で「戦後以来の大改革」を表明。5日の年頭会見では26日開会の通常国会を「改革断行国会」にしたい」と語り、集団的自衛権行使容認の「閣議決定」に基づく安全保障法制整備を進めることや、戦後70年の首相談話を発表する意向も示しています。こうした中で安倍発言。憲法改正の発議について「与党だけではできな

■総理は実現を

「まあ、その予行演習です。『大阪都』構想は15日の会見でこう語った橋下氏。『大阪都』構想の「協定書」について、「憲法改正における国民投票と同じような形でこれか

■改憲を掲げて

橋下氏は国政発議結成に動き出した2012年当時「憲法改正」を決定できる統治機構の本格的再構築(「維新八策」)を公然と掲げ、憲法改正の発議要件(96条)の緩和や憲法9条の改正を問う「国民投票」などを主張し、安倍政権の補完勢力ぶりをあらわにしました。



「大阪都」構想をなんとしてもストップさせようと、シール投票による対話や宣伝に取り組む市民。大阪府政をつくる会と大阪市をよくする会の人たち。18日、大阪市中央区内。

なんとしても都構想ストップを



第3次安倍内閣の発足を報じる各紙



「都構想を実現する」と語る橋下氏=5日

橋下語録から

○…世界では自らの命を落としても難題に立ち向かわなければならぬ。しかし、日本では、震災直後にあれだけ「頑張りなさい」と叫ぶのが東北「絆」と呼ばれていたのに、それが無理になったら一斉に拒絶。全ては憲法9条が原因だと思っています。(2012年2月24日、ツイッターで)

○…憲法96条の改正はしっかりとやり、憲法9条については国民投票を考えています。2年間の議論期間を設けて国民投票。この2年の間に徹底した国民議論をやる(同)

○…憲法前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」との一節に触れ、「信頼するだけで安全と生存を保持するなんて、ありえない」と攻撃。「日本国民が安全保障について考えたことがない。ここが元凶(2

013年3月30日、日本維新の会第1回党大会)

○…日本維新の会綱領「日本を孤立と軽蔑に貶め、絶対平和という非現実的な共同幻想を押し付けた元凶である占領憲法を大幅に改正し、国家、民族を真の自立に導き、国家を蘇生させる(2013年3月13日、第1回党大会)

○…維新の党の基本政策「憲法改正発議要件(96条)のハードルを下げ、国民的な憲法議論を喚起」

がれき処理進まないのは9条のせい

元凶である占領憲法を大幅改正する